

新刊ニュース

#テレマンの宗教独唱歌曲

Telemann, G.P.: Musikalische Werke:Band 57: Geistliche Arien

テレマンの新全集57巻は、1727年に出版されたドイツ語による宗教歌曲集

Auszug der jenigen musicalischen und auf die gewöhnlichen gerichteten Arien です。

すべてが独唱と通奏低音の編成で、ダ・カーポ・アリアの形をとります。

教会暦に従っていますが、通常の教会暦のように待降節 第一主日から始まるのではなく、新年から始まり、降誕で終わります。声部はソプラノ、アルト、テナー、バスの音域をカバーしています。

#ノナントゥラ記譜法による聖歌（ミサ通常文トロースとセクエンツィア）

Early Medieval chants from Nonantola. I & IV

*Recent Reseaches in the Music of the Middle Ages and Early Renaissance*のシリーズですが、以前、「資料室だより 76」に紹介しました上部イタリアのノナントゥラ記譜法による聖歌レパートリーの解説、研究楽譜です。Ordinary Chants and Tropes(I)とSequences(IV)の2冊が入荷しました。詳しい解説とテキストの全訳が付いています。

#Musica Btitannica

このシリーズは創立当時から継続購入しておりますが、イギリス音楽全体を網羅するのでグレゴリオの家にとっては無用の資料もいやおうなく入ってきてしまいます。今回もGeorge Butterworth(1885-1916)のオーケストラ作品—English idylls などというおよそ利用価値のないもの。継続購入をストップしたい気持ちになります。しかし今後フィツウィリアム写本（鍵盤曲集）や、中世イギリス起源の歌集やマシュー・ロックのコンソート・ミュージックも入ってきますのでやはりやめるわけにはいきません。Denkmäler も同じくです。これはドイツ音楽。戦後、国の威信をかけて国単位で網羅的に音楽作品を出版し続けるので仕方ありません。

*音楽文献目録、40

この1年間の間に世に出た音楽関係の文献の目録です。グレゴリオの家の本科生であられた西脇純師の「グレゴリオ聖歌研究」（南山神学）が掲載されています。

杉本ゆり記